⑤＜危機管理＞

危機管理の重要性を理解し、危機を回避する行動をとろうとする校内研修は？
【キーワード】　継続性　協調性　適時性

【事例１：各学年の企画運営による非違行為防止研修】

1　ねらい

非違行為防止研修を継続的に行う中で，校外研修の内容を還元する機会を設けたり，学年会による研修内容の選定と運営を行ったりして，職場から非違行為を起こさない意識を高める。

2　実施時期と内容（例）

月	内　容	担　当
4	校内非違行為防止マニュアルの読み合わせ（職員会議）	教務会
5	体罰やセクハラ，パワハラ等のセルフチェック実施	管理職
6～7	事例を通して学ぶ非違行為防止と対応 （体罰・事故発生時対応等）	管理職
8～2	各学年の企画・運営による非違行為防止研修 校外研修参加者による還元研修	各学年 事務職員
3	１年間の振り返りとまとめ（職員会議）	教務会

3　方法

(1) １学期は，非違行為防止に関する基本的事項の確認やセルフチェック，事例検討による研修を実施する。
(2) 各学年が企画・運営する研修では，体罰・アンガーマネジメント・飲酒運転等をテーマに県教委の配付資料等を利用し，学年単位の小グループによる意見交換を取り入れる。
(3) 自治体研修報告を兼ね，事務職員を講師とした研修を実施する。
(4) 研修内容を学校運営委員会に報告し，意見を取り入れて改善する。

4　校内研修の様子

(1) １学年会担当の研修（９月）

・「校長と教頭が不在中に，ある職員が車で出勤したが，お酒の匂いを発していることに気づいたら，あなたはどのような対応をとるか？」について，小グループで考え，発表し合う。
・担当の１学年職員（次世代育成期相当）から，適切な対応例について説明を聞き，研修のまとめ（感想記入等）をする。

(2) 事務職員を講師とした自治体研修の還元研修実施（11 月）

・情報漏洩を防止するために，情報セキュリティ事故の実例（盗難・攻撃・誤送信等）や要素（機密性・完全性・可用性等）について資料を読み合わせ確認した。その後，学校でできる対策として，主に人的なミスを防ぐ方法やその工夫について考え合った。

研修後のまとめ

※研修を通して，改めて公務員としての襟を正していきたいと思いました。自分も，中堅教員資質向上研修を行っているので，研修したことを学年会などの場で還元していきたいです。（充実期の教員）

➤セルフチェック⑤－７

※実際には経験したことがない状況の話でしたが，こうしたことはあったらどのように対応すべきか，マニュアルなどできちんと確認しておく必要があると感じました。（基礎形成期の教員）

➤セルフチェック⑤－１

※最近，つい言葉が強くなり，２次感情が多くなっていました。今日の研修で考えた，感情の使い分けを実践していきたいと思いました。（次世代育成期の教員）

※研修を通して「情報セキュリティ」の全体像と具体的な行動について理解することができた。より幅の広い研修が大切だと感じた。（次世代育成期の教員）

➤セルフチェック⑤－２

【事例２：具体的事例を用いた校内研修】

1　ねらい　次世代育成の役割を果たす管理職が，研修資料を活用し，危機の未然防止や発生時の対応について，初任者が確実に取り組めるようにする。

2　内容　(1)学校事故の事例
(2)学校事故の裁判例

3　方法　教頭研修で使用した学校事故や判例に関する資料（還元研修での使用について許可済）を用いて，校内の初任者研修（一般指導）を行う。

4　校内研修の様子

・課外活動でイベントに参加した際に起きた落雷事故（教頭研修の講師作成）の資料を読み，事故の経緯や原因を理解した上で，イベント参加前と事故発生時，事故後に学校がとるべき対応について考え合った。

・教頭研修での検討結果と初任者の考えを比べ，学校の取るべき対応について整理してまとめた。また，自校の行事や日頃の学習での対応を考え合った。

・水泳指導中に起きた事故の判例資料を基に，日常の指導を振り返った。

初任者の研修後のまとめ

※事故は，いつも起こりうることだと考え，危機管理や安全確認をすることが大切だと学びました。プールの事例は，本当にいつ起こってもおかしくない中で，１学期の授業をしていたのだと，怖さを感じました。もっと，事故の事例を読むなどして，どのようなことが起こりそうなのかというイメージをもてるようにしたいです。

危機管理の重要性を理解し，危機を回避する行動をとろうとする校内研修を進めるためには・・・

①　**継続性**：学校の安全管理や危機管理については，年度や学期初めだけの研修では，いざという時に適切な判断や行動をとることができません。常に，危険や危機を察知できるようにするために継続的な研修が必要です。

②　**協調性**：管理職や研修担当者が常に研修を実施していては，当事者意識が希薄になります。学年会や校務分掌の担当者といった単位で研修内容や方法を考えて実施することで，職員集団全体の危機管理能力が高まります。

③　**適時性**：学校行事や学習内容等に合わせ，事故や体罰，飲酒運転，わいせつ行為，情報漏洩等を防ぐ研修を実施していくことが大切です。また，方法も事例検討や体験型，小グループによる協議などを織り交ぜるようにします。